



宮崎県 都城市

松元 崇

年齢 : 40歳

営農類型 : 施設野菜 10a (きゅうり)

経営構成 : 本人 (主担当)

妻、母 (随時サポート)

就農のきっかけ

実家は米を作っていますが、周囲で離農が進む中、農業にはビジネスチャンスがあるのではないかと考え、就農を決意しました。家族はサラリーマンからの転身による収入面の不安はあったものの、「挑戦してみようか」と背中を押してくれました。

きゅうり栽培を選んだのは、都城がきゅうりの産地であることに加え、知人（JAみやざき都城地区本部トレーニングセンター1期生）からの助言があったためです。

就農に向けての取組み

就農に当たっては、研修が不可欠です。1年目は先輩農家のもとで、基本的な管理作業やハウス内での実践作業を日々経験しました。2年目はトレーニングセンターのリースハウスで、自らの判断で栽培管理から出荷までを行っています。やりがいがある一方、責任の重さも感じています。

就農時に活用した事業

就農準備資金・経営開始資金は、生活費や資材購入に大変役立ちました。経営発展支援事業はハウス改良に活用予定です。また、JAや市の支援事業ではトラクターやハウスの付帯設備の導入を予定しています。こうした支援がなければ就農は難しかったと思います。

現在の経営状況等について

現在は10aのリースハウスで、きゅうりを栽培しています。ハウスのリース期間は7月までのため、その後は中古ハウスを購入して15a規模とし、さらに夏用きゅうり8aを加えて、合計23aまで栽培面積を拡大する予定です。収穫したきゅうりはほぼJAへ出荷しています。価格の変動はあるものの、出荷先が確保されているため安心して営農できます。

地域のサポート等

JAきゅうり部会に所属しており、困った際には先輩農家、JA、普及センターなどに気軽に相談できるため、大変心強い環境です。また、JAや普及センターが開催する研修会・勉強会に積極的に参加し、技術向上に努めています。

農業の魅力・新規就農者にむけて

農業は自らの工夫や技術が収量や品質に直結する点に大きなやりがいがあります。研修制度や補助金制度を上手に活用しながら就農することが大切だと思います。研修先の指導者や先輩農家、地域関係者とのつながりは、大きな支えになります。

今後の目標と取り組みについて

光熱費の高騰や病害虫対策には課題があります。これらを克服し、収量と品質を安定させることが当面の目標です。病害の発生を防ぐための管理を徹底し、地域平均を上回る収量を目指します。7月にハウスを購入・移転する予定のため、新しいハウスの特徴（土壌の状態など）を把握しながら、さらなる収量拡大に取り組んでいきたいと考えています。